

# 創立30周年記念誌



平成26年3月

埼玉医科大学医学部同窓会

# 創立30周年を迎えて

埼玉医科大学医学部同窓会 会長  
渡辺 雄幸(3期生)



同窓会の創立30周年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。昭和58年11月に設立され、その目的とするところは、会則にある通り、会員相互の親睦を図り、会員の福利厚生、学術の向上、及び母校の充実、発展に寄与することです。会員の皆様と共に歩んだ30年を振り返って、今日、それなりの成果を上げることができています。ただ、同窓会が皆様にとって、本当に満足できるものになっているでしょうか。これを機に、また気持ちを新たに、考えてみたいと思います。

私にとっての同窓会は、大学から借りた小さな部屋から始まりました。医師国家試験浪人の勉強会を手伝っていると、現在も頑張ってもらっている事務の本多さんが常勤となり、丸木記念館6階に同窓会室ができました。ところが医師国家試験の合格率が低迷し、大学、理事会ともしっくりいかない時期もありましたが、それを乗り越えて以後は、合格率も安定して良くなり、いい関係を保っています。そこに突然の東日本大震災です。これからの何をすべきか、今後どうしたらいいのか。そんな思いを感じています。

思い起こせば、私は入学して、剣道部に入部しました。その時の主将が、相木前会長でした。以来、部活、学生会、同窓会とお付き合いさせていただいています。また、卒業して神経内科の医局に入りましたが、そこには前副会長である唄先生がおり、大変お世話になりました。同窓会設立当初より、なにもわからないまま、私は副会長になっていました。それ以来、お二人の後をついて来たような気がします。このお二人なくして、今日の同窓会はなかったといっても過言ではないと思います。私が会長に就任してからも、困った時には貴重なご助言をいただいております。

現在、同窓会の活動としては、総会を年1回、常任委員会を年2回実施しており、会報、会員名簿、記念誌の刊行、ホームページの管理・運営、産業医研修会、研修医歓迎会、海外留学の助成、若手研究者に対する研究助成(落合記念賞)など行っています。また、大学祭・東医体などの学生活動援助、国家試験受験対策、学生会との交流などです。近年では、学会の主管時の寄附も行っています。対外的には、全国私立医科大学連絡会を通して、他私立大学の同窓会役員との幅広い意見交換を図り、平成26年11月には、全国会の主管が決まっています。

同窓会を今後発展させていくためには、より多くの同窓生が参加しうる、魅力ある同窓会を創ることが大切です。若い世代の後継者を育てること、学生会員にはもっと同窓会をしてもらう必要があります。以前は常任委員会の充実、総会の活性化を訴えてきました。しかし会員の皆様からすれば、自分の仕事、生活の場である地元というか、地域でのつながりが最も大切で、すぐに顔の見えることが、一番重要です。そう考えると、地域での同窓会、すなわち、同窓会の支部における活動が、今後もっとも大切な課題だと思います。

同窓会本部は、要請があった時に援助をすればいいことで、各支部の状況に応じて対応すれば事足ります。特に埼玉県支部の場合、埼玉県在住の医師の多数を占めるようになった現状からして、県内各地区で密に連携が取れば、地域の住民にとって、良質のいい医療が提供できるのではないのでしょうか。また他府県の郡市医師会レベルでも、何人かの医師会会長、副会長がいます。今後、積極的に地域の医療政策に関わっていくためには、ますます同窓生の連携を密にしていかなければならないと思います。

我が国の急速に進む高齢化社会の今後の医療は、持続可能な制度を目標に、かつての救命、治療、社会復帰を前提とした医療から、複数の疾病を持つ高齢者が、病氣と共存しながら維持・向上を目指す医療に変わらざるを得ない。即ち、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える医療に変わらざるを得ません。

母校にも、多くの優秀な同窓生が勤務しています。同窓生が中心となって良くしようと思わなければ、大学は決して良くはなりません。是非、後輩を育てて欲しいと思います。そして皆が研修をしたいと思える病院にして欲しいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様には、健康に留意され、ますますのご発展を祈願しております。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。